

当院は**肥満症治療薬ウゴービ**が投与可能な施設です

ウゴービは厚生労働省が GLP-1 受容体作動薬の乱用を防止するため、最適使用推進ガイドラインに記載されている施設・医師要件を満たす施設でのみの使用が可能です。

当院では、肥満症治療薬（GLP 受容体作動薬：ウゴービ）を用いて、効果的な体重管理（体重減少）を目指す治療を提供しています。肥満症治療の基本は食事療法と運動療法であり、これらの治療の基本に薬物療法を加えることにより効果的な減量効果が得られることが示されていますが、様々な副作用もあり治療開始前には十分に副作用についてご理解いただくことが大切です。

ウゴービ治療の対象になる方

下記の2つの条件の両方満たす方が治療の対象となります。また、ウゴービの治療開始にも様々な条件があり下記に記載します。

1. 高血圧・脂質異常症・2型糖尿病のいずれかの診断を受けており、**いずれかの薬物療法が行われ、適切な食事療法・運動療法を6か月以上継続している方。**
2. BMI が 35m g/m^2 もしくは、 27m g/m^2 以上で『**2つ以上の肥満に関連する健康障害**』を有する方。

『肥満に関連する健康障害』

1. 耐糖能障害（2型糖尿病・耐糖能異常など）
2. 脂質異常症
3. 高血圧
4. 高尿酸血症・痛風
5. 冠動脈疾患
6. 脳梗塞
7. 非アルコール性脂肪性肝疾患
8. 月経異常・不妊
9. 閉塞性睡眠時無呼吸症候群
10. 運動器疾患
11. 肥満関連腎障害

ウゴービ開始の条件

- ・ウゴービ開始までに問診票の記入と諸検査を受ける
- ・定期的に栄養指導・運動指導・採血、場合により心電図やCT撮影など医師の指示で検査を受ける
- ・**4週間ごと**の処方となりますのでその都度通院が継続できる
- ・投与期間は最大で **68週間**

ウゴービの作用機序

- ・脳の視床下部の満腹中枢に作用し食欲を抑制する
- ・胃腸に作用し消化がゆっくりとなる（腹持ちが良くなる）

↓

食欲が落ち着き、食事量が減る

↓

摂取カロリーが減少し、伴い体重が減少する

ウゴービの副作用

- ・胃腸炎・食欲減退・頭痛・不動性めまい・味覚不全
- ・糖尿病網膜症・心拍数増加
- ・悪心・下痢・嘔吐・便秘・消化不良・おくび・腹痛・腹部膨満
- ・腹部不快感・胆石症・注射部位反応・疲労・無力感・早期満腹
- ・倦怠感・脱毛症・不眠症

重大な副作用

- ・低血糖
- ・急性膵炎
- ・胆嚢炎・胆管炎・胆汁うっ滞性黄疸

上記、副作用を早期に対処するために、定期的に採血を行い外来で管理していきます。また薬剤使用が合わない場合は、次回受診を待たずに医師の診察を受けてください。

薬剤の紹介

- ・薬剤は 0.25m g ～2.4m g があります
- ・医師の指示で 0.25m g から使用を開始します

薬剤の管理方法

- ・直射日光を避け、冷蔵庫に保管します（凍結禁止）



治療費・薬剤費について

商品名	薬剤量	金額（1ヶ月分・4本）
ウゴービ皮下注 SD	0.25m g	15000 円
	0.5m g	23000 円
	1.0m g	40000 円
	1.7m g	50000 円
	2.4m g	65000 円

- ・診察・採血などは健康保険対象です
- ・ウゴービ皮下注は自由診療となり上記費用が発生します

予定表 (のものを予定しています)

	初回	1回目	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	10ヶ月	13ヶ月	16ヶ月
問診	○											
診察	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
血圧	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
身長	○											
体重	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
採血	○		○			○			○	○	○	○
In-body	○					○			○	○	○	○
運動指導	○											
処方		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
栄養指導		予約 1ヶ月受診時、13:50~14:30 40分間										

※In-bodyとは、体の筋肉量を測定する検査です

【初回受診】

- ・問診→血圧測定→身長・体重測定→In-body+運動指導→診察→採血取り帰り

【1回目受診】

- ・初回検査の結果、『ウゴービ治療』が可能かどうかをお伝えします。可能であれば当日に処方をいたします。
- ・1ヶ月受診時に栄養指導の予約を取得します。

【1ヶ月以降】

- ・体重管理外来 月・木曜日 午後予約診察 長谷部先生
- ・毎月受診日は上記表を参照していただき、採血・各計測を診察の前に行います。
採血の結果がでるのに約1時間かかりますので、診察予約時刻の1時間前にご来院をお願いします。

【その後】

- ・4ヶ月・7ヶ月・10ヶ月・13ヶ月・16ヶ月
3ヶ月ごとに採血・In-bodyを受けて頂きます。
- 3~4ヶ月投与しても改善傾向が認められない場合は投与が中止となる場合があります。

【健康管理】

- ・診察の翌日、メール配信で健康確認をさせていただきます。万が一お薬が合わない、体調が優れないなどの不調がありましたら、次回受診を待たずに受診をおすすめします。



薬剤の使用・注意点

- ・薬剤は皮下注射（主に腹部の脂肪部分に自己注射します）
- ・注射は1回/週、決まった曜日に食事に関係なく注射出来ます
 - ① 注射部位をアルコール綿花で優しく消毒をします
 - ② 脂肪部分を軽く摘み上げ、腹部に垂直に押し当てます
 - ③ 1回目「カチッ」音がなったら薬剤が自動的に注入されます
 - ④ 2回目「カチッ」音がなったら薬剤注入終了の合図です。注射器をゆっくり抜きます

【注意点】

- ・注射後は通常の日常生活で構いません
- ・注射当日の入浴は可能です
- ・注射部位は当日こすったりしないようにしてください
- ・注射を忘れてしまった場合、次回投与までの期間が2日（48時間前）以上であれば、気付いた時点で直ちに投与できます。その後はあらかじめ定めた曜日に投与をしてください。

薬剤の処理方法

- ・注射針は自宅では処分できませんので病院にお持ちください。
- ・外科外来受付後ろに針専用のごみ箱があります。受診時まとめてでも構いませんので必ず病院で破棄してください。

薬剤の運搬方法

- ・薬剤の持ち運びは保冷バックに入れる必要があります。初回お薬をお渡しの際に保冷バックに入れてお渡ししますが、2回目からは必ずバックをご持参ください。



体重コントロール後の自分を思い描き頑張りましょう！